

科目名	労働経済学	科目分類	■専門科目群 □総合科目群	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	Labor Economics	開講年次	□1年 □2年 ■3年 □4年	
		開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
ふりがな	ふじもと つよし	実務家教員担当科目	修得単位	2 単位
担当者名	藤本 剛	実施方法	■対面のみ □遠隔のみ □対面・遠隔併用	
授業のテーマ	労働市場、労働条件・労働環境、労使関係について基礎知識を学び、働くことへの理解を深めます。			
到達目標	社会における自らの役割を自覚するベースとなる知識や思考を身に付け、働くことに対する自らの意識を充実させることです。			
授業概要	3年後半になると就職活動が現実になってきます。この授業では「働く」ときに直面することになるさまざまな問題を社会政策の側面から取り上げ、制度や仕組み、現状と課題などについて共に考えていきます。近年、派遣やパート労働、契約雇用など、我が国の労働市場は流動性を増大させており、かつての年功序列・終身雇用などが支配的だった安定した働き方は崩れ、フリーターやニートなどが一定の層となって堆積し続けている状況といえます。さまざまな労働をめぐる問題についてより踏み込んで分析し、確かな判断力と今後への指針を得るのがこの科目の目標です。			
授業計画				
第1回	労働問題の諸相 資本主義の歴史的発展の中で表れてきた労働経済・事情分野の諸問題について概観し、政策課題について考えます。			
第2回	労働市場の動向をとらえる主な指標について、特に失業を中心に捉え、その意味について考えます。			
第3回	前回に続き、UV曲線、フィリップス曲線、失業率、有効求人倍率などについて考えます。			
第4回	歴史的に不可避となった雇用政策について概観し、我が国の雇用制度、就業形態の特徴をあきらかにします。			
第5回	近年、我が国でも特徴的な就業形態の多様化と、これに対する政策的対応について概観し、国際比較なども含めて考察します。			
第6回	賃金について、代表的な政策といえる最低賃金制の特徴を明らかにし、我が国の状況についても考察します。			
第7回	賃金はどのように決定されるのか、我が国の賃金制度の特徴は何か、どのような変化がみられるのかについて取り上げます。			
第8回	前回に続き、我が国の賃金制度の特徴、成果主義の導入などについて考察し、賃金格差の状況についても検討します。			
第9回	労働時間について、どのような制度や規制がなされているのか、その特徴について考えます。			
第10回	わが国の労働時間について、その変遷や制度的規制、実態と過労死問題などについて考えます。			
第11回	ワーク・ライフ・バランス、労働時間の国際比較、過労死対策などについて検討します。			
第12回	労働組合とは何か、歴史的形成や諸類型について考察し、シヨップ制についても検討します。			
第13回	わが国の労働組合について、歴史的な変遷と現在に至る経緯を検討します。			
第14回	労働組合の組織率や労働交渉について、我が国の状況を中心に検討します。			
第15回	政労使合意として国際的にも取り上げられているワークシェアリングについて、オランダモデルを考察し、我が国の状況を検討します。			
第16回	定期試験			
授業時間外の学習	新聞に載る雇用・失業や賃金、労働時間、労使関係などの関連記事に目を通し、記事で取り上げられている内容の理解に努めてください。ネットを利用するのも一つの方法です。出席カードへのメッセージなど、歓迎します。			
履修条件 受講のルール	特にありませんが、関心をもって受講してください。			
テキスト	プリント、パワーポイント、ビデオなどを使用します。			
参考文献・資料	公務員Vテキスト 『社会政策』 第12版 TAC出版 『労働経済白書 各年版』厚生労働省			

成績評価の方法	試験 (50%)、レポート・ビデオの感想・意見等 (30%)、受講態度 (20%) 出席回数が規定に満たない場合及び授業料その他納入金等の全額を納めていない場合は、試験を受けることができません。
オフィスアワー	月曜日の12時～13時 木曜日の18時～19時
成績評価基準	秀 (100～90点) 優 (89～80点) 良 (79～70点) 可 (69～60点) 不可 (59点以下)
実務経験及び実務を活かした授業内容	
学生へのメッセージ	半期で行うには対象範囲が広い科目です。関心をもって積極的に予習・復習や情報収集を行ってください。